



TITLE:

國際統計協會と國際聯盟

AUTHOR(S):

菊田, 太郎

CITATION:

菊田, 太郎. 國際統計協會と國際聯盟. 經濟論叢 1929, 28(4): 653-656

ISSUE DATE:

1929-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/129727>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 四 第 卷 八 十 二 第

行發日一月四年四和昭

論 叢

醫師と營業課税・・・・・・・・・・・・・・・・法學博士 神戸 正雄

マルサスの恐慌論・・・・・・・・・・・・・・・・經濟學士 谷口 吉彦

講 演

長崎の機船底曳網漁業と金融情況・・・・・・・・法學士 長谷川安次郎

說 苑

フランスの新貨幣制度に就て・・・・・・・・經濟學士 松岡 孝兒

英蘭銀行の成立及び發展過程に就て・・・・・・・・經濟學士 一谷藤一郎

大阪爲替會社の業績・・・・・・・・・・・・・・・・經濟學士 菅野和太郎

最近の諸國幣制改革の傾向・・・・・・・・經濟學士 島 本 融

雜 錄

京都府に於ける士卒の歸農商に就て・・・・・・・・經濟學士 堀江 保藏

英國新聞界のコンツエルン・・・・・・・・經濟學士 磯部 喜一

國際統計協會と國際聯盟・・・・・・・・經濟學士 菊田 太郎

國際統計協會と國際聯盟

菊田 太郎

一

各國の統計方法を改善統一して統計に國際的比較性を與へる必要の存在することは、夙にケトリーの認めたる所であつて、彼は此の任務を果たす統計學者及び統計實務家の國際團體として國際統計會議 International Statistical Congress を組織した。この團體は一八五三年以後隔年各地に會議を開き、統計方法の國際的統一を主たる目的として方法論上の問題を考究決定し、その決定の結果を各會員がそれぞれ本國に於いて實現す

ることに努め、統計の發達特にその國際的比較性の増大に多大の好影響を及ぼした。ケトレは又この會議をして國際統計作成の機關たらしめやうとしたが、その意圖は實現されなかつた。

この國際統計會議の後を受けて一八八五年に成立した國際統計協會 Institut International de Statistiqueも、當初は、同じく隔年に會議を開き、方法論上の問題を考究決定してゐた。然るに、一面協會の努力の結果統計の國際的比較性が漸く増大すると共に、他面國際統計を要求する聲も次第に高くなつた。この點に鑑み、ドイツ統計局長 van der Borcht は、一九〇九年のバリ會議に際して、國際統計作成に當るべき機關の創設を提案したのであるが、この案は一九一三年のウィーン會議に於いて可決され、同年十一月ヘーグに國際統計協會常設事務局 Office Permanent de l'Institut International de Statistique が設立された。こゝに於いて國際統計協會は、統計方法論上の問題の考究決定以外、國際的比較性を有する各國の統計を蒐集し、必要

の場合にはこれを整理し、總括して國際統計を作成する任務をも負ふに至つたのである。

二

然るに、世界大戰の終了後一兩年を経て協會が戰前の機能を恢復するやうになると、事情が一變した。

戰前國際統計を要求したのは主として學界であつたから、協會が會議を開いて會員の提案する方法論上の問題を討議し、必要な場合には委員會をして更に考究せしめた上、次回の會議に於いて之を決定し、この決定に本づいて常設事務局が國際統計を作成すると云ふ方法によつても、相當その任務を果たし得た。之に反して、戰後國際統計を最も強く必要とするものは、國際問題を刻々に解決して行かねばならぬ國際聯盟及びその傍系機關たる國際労働局であつて、その要求する所は千遍一律の國際統計ではなくて具體的な需要に適した國際統計であり、またこれを作成する準備としての方法論上の問題の決定である。かゝる要求に應ずる

ものとしては國際統計協會は殆んど無能力であるから、聯盟事務局及び國際勞働局は何れも統計事務を掌る統計局を設け、必要な統計を作成すると共に、國際統計を公表し、また方法論上の問題を決定する統計學者統計實務家の國際會議をも、或は既に開催し、或は開催することに決定するに至つた。

要するに、現在に於いては同一任務に對して國際統計協會と國際聯盟及び國際勞働局とが對立拮抗してゐるのであるが、後者が漸次活動の分野を擴張して行くに反し、前者はその存立の意義を減しやうとしてゐる。こゝに於いて、國際統計協會改造問題が生じ、各種の意見が發表されて來た。

III

その主なものは一九二八年のカイロ會議に於けるブタペスト市統計局長 Thirring の提案 (Journal de la Société Hongroise de Statistique. IV. année, No. 1 参照)、本年の Allgemeines Statistisches Archiv, 18. Band,

4 Hot 誌上に於ける國際勞働局統計課長 Pribram 及びバイエルン統計局長 Zahn の提案である。

Thirring は國際統計に關聯する事業を専ら協會の手によめやうと主張するのであるが、國際統計事業及び協會の現状によつて判斷すれば、實現不可能と云ふ他なく、Pribram の方法論の考究は協會に國際統計の作成は聯盟事務局及び國際勞働局にと云ふ主張も、方法論の考究と實際とを切離し且つ國際統計の正確度を害する嫌がある。これらに比較すると、Zahn が協會の常設事務局と聯盟事務局及び國際勞働局の統計課とを併合して國際統計局を設置すべしと主張してゐるのは、極めて妥當であり、實現の可能性も多い。

Zahn の云ふ國際統計局はドイツ・イタリー・ポーランド乃至我が國の統計局の如きものであつて、二課を置き、一は定期に學界並びに實際界に必要な國際統計を作成し、他は聯盟及び國際勞働局等の必要に應じて隨時に一定の事項に關する國際統計を作成する。而して、その必要とする經費は總べて聯盟の支給に仰ぐけ

れども、各國統計局の政府に對するやうな獨立性を與へて、その統計を正確ならしめる。更に方法論上の疑問の生じた場合には、協會の會議に提案して、その議題とする。

協會そのものには殆んど何らの變化をも與へず、その終身會員の權利を保證し、従前の事業を行はしめる。唯從來維持して來た常設事務局が新設の國際統計局の一部となる許りである。

この主張が實現されて、國際統計局が設立され、充分の活動を營むとすれば、各方面に多大の好結果を來すことは明である。先づ、國際統計協會は時勢の要求に協ひ且つ過去の歴史に相應しい活動の分野を確保し得る。次に、國際聯盟及びその傍系機關たる國際労働局は完全な統計作成の機關を獲得する。最後に、かくして協會及び聯盟が協力することになれば、世界の學界實際界は内容が豊富で信頼度の高い國際統計を提供されることにならう。

ローマは一日に成れるにあらず。各國の統計局は今

日の位置を得るまでには相當の歳月を要した。この國際統計局設立の提案も直ちには實現すまい。併し、國際統計協會内には自己の分野を確立しやうとする潮流が既に動いて居り、國際聯盟もその統計事務の擴大に連れ愈々統計機關整備の必要に迫られやうから、早晚實現の期が到來すると考へられるのである。